

■ 2021年度 入試問題分析シート ■

名古屋大学

前期日程

科目	数学(理系)
----	--------

総括	試験時間	150分	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
			分量(昨年比)	増加	昨年並	減少
<p>〈総論〉 例年通り大問4題であるが、小問による誘導が丁寧になり、全体的に解きやすくなった。特に、1は5個の小問に分かれていた。</p> <p>〈特記事項・トピックス〉 数学Ⅲの微積分の問題が出題されなかった。図形、ベクトルの問題も出題されなかった。 文系との共通問題が例年より多かった。</p> <p>〈合格への学習対策〉 今年度は例年に比べて易しかったが、来年度は例年並みの難易度であると思ってよい。日常の学習において、大型の問題についても最後まで取り組み、答えを導く習慣をつけておく。また、やや難しい問題でも自分で考え方を組み立てて解答を進めていくように練習する。</p>						

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
1	記述	Ⅱ	数学Ⅱの微分・積分	(2) 2つの放物線が2本の共通接線を持つための条件を2次方程式が異なる2つの実数解を持つ条件として捉えることがポイントである。 (5) 根号内がaの複2次式なので、平方完成をして最大値を求めればよい。	やや易
2	記述	Ⅱ	指数・対数 3次関数のグラフ	(2) $\frac{3}{2}$ との大小を考えることがポイントである。 (3) $f(x)$ を因数分解し、3次関数のグラフを考える。 (2)の大小関係を活用して、正負を判定する。	標準
3	記述	A	確率	樹形図的に書き出して確率を計算する。	標準
4	記述	B	数列	(2)、(3)では、ガウス記号の不等式 $[x] \leq x < [x] + 1$ を念頭に置くことがポイントである。	やや難

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。